

きものSalon

きもの
サロン

2012-13 秋冬号

裏千家・五藤宗紫先生
遠州流・戸川宗彬先生
が指南

茶席きもの 大正解

秋色きもので 着映え美人

小雪さん
凜と薫る姿美人

初代龍村平藏の世界

祝いのきもの納得の一枚

お正月に着たい大人の小紋

岩井香楠子さんの
型絵染め

読者特典つき!
とっておきの
きものグッズ

「今はシルク封印のゴットンな毎日」。 きものへの憧憬を募らせて」



紫色の袖を着た小雪さんがカメラの前に立つと、ラベンダーの花がそよぐような芳しい空気に包まれました。

時代劇の撮影で京都に滞在中の小雪さんを追いかけて、明治期に迎賓館として建てられた東山の瀟洒な洋館で行われた今回の撮影。小雪さんがきものを着替えて現れるたび、まるで映画のワンシーンの中にいる気分になりました。

「最近、古いものを大事にしたいと思うようになりました。結婚祝いも、という友人たちに古伊万里のお皿をリクエストしたんです」和のものを身近にという気持ちから、結婚の記念にきものを一枚つくりたいという小雪さん、染め工房を見て回るうち、自分が好きなものがわかってきて、構想がふくらんでいるところなのだそう。

「青森に行ったときに印象に残った桜をイメージしているんです。東京の桜とは違う薄墨のような桜の花、空もブルーグレーで、淡い綺麗な世界……。たとえば、^暁暁に刺繍が入った付け下げが素敵かな」

20代の頃とは趣味や感じ方が変わって、気分が高揚するようなきものに惹かれるという小雪さん。刺繍は刺繍、染めは染め、一つひとつ技術を持った人の手で作られるきもの世界に魅せられているようです。

子育てと仕事の両立で忙しい今は、小雪さん曰く「ゴットンな毎日」。そんな中で、じっくり時間をかけて詠えるきものは、想い出とともに一生のお気に入りになることでしょう。女優としてだけでなく、ひとりの女性として、生き方に共感できる素敵なお人です。

秋色ピンクの着こなしで
大人の可愛らしさを

お伽噺の花園のような可愛さのある、型絵染め作家・荒川真理子さんの帯を主役にした着こなし。くすみのある秋色ピンクの伊那紬との同系色の取り合わせに、帯締め
の紺色を効かせて。食事会や女子会に、若々しいカジュアルきものとして着やすい1枚です。帯／きもの処 喜好 きもの33万6000円
／豊中・織元 帯揚げ／宮川 帯締め／道明 バッグ92万4000円
／コンテス(アクリスジャパン コンテス事業部)

